

研 究

保育所における保育所看護師等の保健活動に対する
自信とその影響要因について山本 弘江^{1,2)}, 西垣 佳織^{1,3)}, 宮崎 博子⁴⁾
藤城富美子⁴⁾, 多屋 馨子⁵⁾, 上別府圭子¹⁾

〔論文要旨〕

保育所看護師等の保健活動の実態および自信、自信に影響する要因を明らかにすることを目的に、全国認可保育所2,289施設に質問紙調査を行い、看護師等の配置がある311施設の保育所長と看護師等から回答を得た。この結果、保育所保健活動16項目に対する看護師等の自信は、保健活動の担当状況とほぼ合致し、保健活動の実態、看護師等配置の意義の評価、保育所勤務年数、休日保育の有無、子育て経験、小児看護臨床経験が影響を与えていた。保育所看護師等に期待される役割を実感し、その専門性を発揮した活動を行えるような環境の整備と、小児看護臨床経験等を補い、専門性を高める研修等の開催、保育所看護師として長期的に働くためのキャリア支援の必要性が示唆された。

Key words : 保育所, 看護師, 自信, 保健活動

I. 緒 言

働きながら子育てをする家族にとって、保育所は欠かせない存在である。平成20年に厚生労働省より発表された保育指針では、改善点の1つとして健康・安全のための体制充実が挙げられ、保育士だけでなく、保育所に携わる全職員の連携・協力、専門的職員の確保といった保育体制の重要性が述べられており、保育所保健活動の専門家として保育所看護師等について明文化がされることとなった¹⁾。このような背景の中、上別府らが2009年に行った全国調査では、看護師等の配置は29.7%と、2000年の高野らの全国調査の17.7%から10%以上高い結果が得られ、看護師等の配置が以前より進んでいた^{2,3)}。低年齢児枠の拡大や延長保育、病

後児保育といった保育事業の拡充に伴い、保育所看護師等に対して、その専門性を活かした子どもへの対応と保護者および保育士への教育的役割への大きな期待が寄せられている⁴⁾。このことは、遠藤の独立配置の看護師等への調査結果からも明らかである⁵⁾。

しかし、先行研究からは、保育所保健業務に対する期待に反して、現状として保育所に配置されている看護師等の役割は明確となっておらず、加えて、その多くが一人職種であり、保育所保健業務を一人で担うことについて、さまざまな葛藤がある中、孤軍奮闘している^{6~10)}。

このような保育所看護師等の現状に対し、専門職としての保育所保健活動への自信は、一人職場内での専門性の発揮にも結びつく重要な要因であるが、この自

The Confidence of Nurses in Health Care Activities at Nursery Schools

〔2741〕

Hiroe YAMAMOTO, Kaori NISHIGAKI, Hiroko MIYAZAKI,
Fumiko FUJISHIRO, Kaoruko TAYA, Kiyoko KAMIBEPPU

受付 15. 6.15

採用 15.11.18

1) 東京大学大学院医学系研究科 (研究職)

2) 名古屋大学大学院医学系研究科 (研究職)

3) 東京保健医療大学 (研究職)

4) 全国保育園保健師看護師連絡会 (看護師)

5) 国立感染症研究所感染症情報センター (研究職)

別刷請求先: 山本弘江 名古屋大学大学院医学系研究科 〒461-8673 愛知県名古屋市東区大幸南1-1-20

Tel/Fax : 052-719-1578

信に着目した研究はない。保育所看護師等が保育所保健活動に対し、どの程度の自信を持っているか、またどのような要因が自信に影響を与えているかを明らかにすることは、保育所看護師等のさらなる充足と保育所保健の充実に重要である。

そこで、全国の保育所看護師等の保育所保健活動に対する自信に着目した研究を行った。

Ⅱ. 研究目的

1. 保育所看護師等の保育所保健活動に対する自信の特徴を明らかにする。
2. 保育所看護師等の保育所保健活動に対する自信に影響する因子を明らかにする。

Ⅲ. 用語の定義

保育所看護師等とは、保育所に勤務する保健師、助産師、看護師、准看護師を指す。ここでは雇用形態などは問わない。

保育所保健活動とは、保育所において、看護師等が行うべき、看護の専門性が高い業務とする。本研究では全国保育園保健師看護師連絡会が2005年に作成した2つの柱（健康・安全管理、地域への子育て支援）からなる「保育園保健業務の活動領域」¹⁰⁾を参照し、保育および保育所保健の専門家6名で検討を重ねた具体的な活動16項目を指す。

Ⅳ. 研究方法

1. 対象

全国認可保育所22,840施設に対し、層化無作為抽出法を行い、1/10の2,289施設の保育所長、そして看護師等の配置がある場合は看護師等を対象に質問紙を配布した。保育所長1,075名（回収率47%）の回答で、看護師等の配置がある320施設（30%）のうち保育所長、看護師等の2者の回答が得られた311組を分析対象とした。

2. 調査方法

保育所長、看護師等それぞれに、無記名自記式質問紙を用いて調査を行った。保育所の概要は、保育所長より収集した。看護師等の背景と保育所保健活動の担当状況、看護師配置の意義、保育所保健活動に対する自信については、看護師等より収集した。なお本調査は、平成21年10月厚生労働省の補助事業である日本保

育協会「保育所の環境整備に関する調査」²⁾の調査項目の一部を使用した。

3. 分析方法

分析には統計解析パッケージPASW (Ver.16)を用いて、保育所看護師等の背景および保育所の概要、保育所保健活動の担当状況とそれに対する自信について記述統計量を算出した。また、保育所保健活動に対する自信と関連する要因に関して、Mann-Whitney U検定およびPearsonの相関係数を算出後、自信を従属変数として、関連のある因子を独立変数とし、変数減少法を用いて重回帰分析を行った。

4. 倫理的配慮

各対象者にはそれぞれ目的・方法を記した依頼文と質問紙を配布した。研究参加は自由であり不参加でも不利益は被らないこと、得られた結果は厳重に管理されること、調査は無記名で保育所・個人は特定されない旨を依頼文に明記し、質問紙の返送をもって同意を得たものとした。各施設の保育所長、看護師等は同一IDによって管理した。なお、本研究は東京大学医学部倫理委員会の承認を得て行われた。

V. 結果

1. 保育所看護師等の現状

保育所に配置されている看護師等の平均年齢は 43.64 ± 10.04 歳で、8割が子育て経験ありと回答した。1年以上の小児看護臨床経験を持つものは126名（40.5%）であった。保育所での経験年数の平均は 1.73 ± 0.77 年で、全員が3年以下の経験であった。また280施設（90%）は、看護師等が1名配置であった。看護師等の雇用形態は166名（48.8%）が常勤専任配置で、次いで常勤保育士定員内配置78名（22.9%）であった。保育特別事業の実施状況では、0歳児保育299施設（96.1%）、延長保育292施設（93.9%）とほとんどの保育所で実施していたが、休日保育29施設（9.3%）、病児・病後児保育44施設（14.1%）は低い実施率であった。看護師等に保育所保健活動16項目の担当状況について、「いつも担当する」（5点）～「担当しない」（1点）、「保育所にて実施していない」（0点）で回答を得た結果、保健活動担当状況の合計（以下、保健活動の実態）の平均は 52.8 ± 14.1 点（range10～80）であり、 α 係数0.919であった。各項目の担当

表1 看護師等の保育所保健活動担当状況

n=311

	mean ± SD	いつも 担当する	ほとんど 担当する	どちらとも いえない	ほとんど 担当しない	担当 しない	実施 していない	欠損値
1) 子どもの発育発達の把握	3.95±1.08	34.1%	33.1%	19.0%	5.1%	0.6%	1.9%	6.1%
2) 嘱託医との連携	4.00±1.25	44.7%	25.1%	14.5%	4.8%	4.2%	1.9%	4.8%
3) 子どもの健康管理	3.92±1.20	40.8%	24.8%	19.9%	7.1%	2.3%	1.9%	3.3%
4) 生活習慣の健康教育	3.19±1.23	12.9%	27.3%	33.1%	13.5%	4.8%	3.9%	4.5%
5) 薬の管理や与薬前後の状態観察	3.80±1.27	35.0%	28.6%	21.9%	5.5%	1.6%	4.2%	3.2%
6) 感染症の早期発見・対応, 関係機関との連携	3.92±1.05	32.8%	35.0%	21.2%	5.5%	0.6%	1.6%	3.2%
7) けが, 体調不良児の処置・対応	4.20±0.75	35.4%	46.9%	12.9%	1.0%	0.0%	0.3%	3.5%
8) 慢性疾患がある子どもへの対応	3.57±1.13	21.2%	30.2%	31.8%	7.4%	1.6%	2.6%	5.1%
9) 障がい児への対応と関連機関との連携	2.30±1.38	5.5%	9.6%	33.1%	19.3%	14.1%	13.2%	5.1%
10) 気になる子への対応	2.61±1.12	4.2%	9.6%	46.3%	19.9%	9.3%	5.5%	5.1%
11) 被虐待児への対応	2.22±1.35	4.8%	6.4%	33.8%	16.4%	17.0%	12.2%	9.3%
12) 職員指導	3.56±1.29	27.7%	25.1%	25.4%	9.0%	5.1%	2.6%	5.1%
13) 保護者への保健指導	3.65±1.46	36.7%	23.8%	15.4%	9.6%	6.4%	4.2%	3.9%
14) 病児・病後児保育での健康観察	2.91±1.87	22.2%	22.5%	19.6%	3.5%	3.5%	21.5%	7.1%
15) 地域の子育て支援	2.10±1.59	8.4%	11.9%	17.0%	18.0%	18.3%	19.0%	7.4%
16) 災害時緊急時に備えた対応	2.82±1.31	9.3%	18.3%	35.4%	16.1%	9.6%	6.1%	5.1%
保育所保健活動の実態 (n=234) (0~80)	52.8±14.1 (range 10~80)							

状況を表1に示す。看護師等の主観で、実際の業務を100とした時、保健活動業務が占める割合は、平均41.9±19.2%であった。看護師等配置の意義について、「とても意義がある」(5点)~「まったく意義がない」(1点)までの5段階で尋ねたところ、平均4.4±0.8点であった。

2. 看護師等の保育所保健活動に対する自信の特徴(表2)

看護師等の保育所保健活動16項目に対する自信について、「とても自信がある」(5点)~「まったく自信がない」(1点)の5段階で尋ねた結果、16項目の合計得点の平均は53.7±8.7点(range 33~80)であり、 α 係数0.92であった。「とても自信がある」または「やや自信がある」と回答した人が半数以上を占める自信の高い保育所保健活動は順に、『薬の管理や与薬前後の状態観察』、『けが, 体調不良児の処置・対応』、『子どもの発育発達の把握』、『子どもの健康管理』、『嘱託医との連携』、『感染症の早期発見・対応, 関係機関との連携』、『病児・病後児保育での健康観察』、『慢性疾患がある子どもへの対応』であった。これに対し、「とても自信がある」または「やや自信がある」という肯定的な評価よりも、「あまり自信がない」, 「まったく自信がない」という否定的な評価が高く、平均が3点に満たない保育所保健活動は、低いものから順に『被

虐待児への対応』、『地域の子育て支援』、『障がい児への対応と関連機関との連携』、『気になる子への対応』、『災害時緊急時に備えた対応』の5項目であった。『生活習慣の健康教育』、『職員指導』、『保護者への保健指導』の3項目は、上記の肯定的、否定的評価のどちらにも当てはまらない項目であった。

3. 看護師等の保育所保健活動に対する自信に影響する因子

看護師等の保育所保健活動に対する自信との関連を明らかにするため、看護師等の職種、小児看護臨床経験の有無、子育て経験の有無、資格取得学校、看護師等の配置状況、通常保育以外の特別事業、雇用形態について自信の差を検定した結果、小児看護臨床経験の有無 ($p = .001$) と、子育て経験の有無 ($p = .005$)、休日保育実施の有無 ($p = .003$)、常勤専任配置か否か ($p = .002$) について有意な自信得点の差が認められた。次に看護師等の年齢、保育所勤務年数、保健活動業務割合、保健活動の実態、保育児童数、看護師等配置年数、看護師等配置の意義と自信の相関について分析した結果、看護師等の年齢 ($r = .189$)、保育所勤務年数 ($r = .228$)、保健活動業務割合 ($r = .319$)、保健活動の実態 ($r = .650$)、看護師等配置年数 ($r = .176$)、看護師等配置の意義 ($r = .371$) の6項目

表 2 看護師等の保育所保健活動に対する自信

n=311

	mean ± SD	とても 自信がある	やや 自信がある	どちらとも いえない	あまり 自信がない	まったく 自信がない	欠損値
1) 子どもの発育発達の把握	3.71±0.69	10.0%	50.5%	31.5%	2.9%	0.0%	5.1%
2) 嘱託医との連携	3.65±0.84	12.9%	44.4%	32.2%	4.8%	1.6%	4.2%
3) 子どもの健康管理	3.69±0.74	11.9%	46.6%	33.4%	4.2%	0.0%	3.9%
4) 生活習慣の健康教育	3.27±0.82	5.1%	31.2%	46.0%	12.5%	1.6%	3.5%
5) 薬の管理や与薬前後の状態観察	4.00±0.74	24.1%	49.2%	20.3%	1.9%	0.0%	4.5%
6) 感染症の早期発見・対応、関係機関との連携	3.63±0.76	10.6%	45.0%	34.4%	5.8%	0.0%	4.2%
7) けが、体調不良児の処置・対応	3.90±0.71	16.4%	56.9%	19.6%	3.2%	0.0%	3.9%
8) 慢性疾患がある子どもへの対応	3.56±0.75	8.7%	42.4%	38.6%	6.1%	0.0%	4.2%
9) 障がい児への対応と関連機関との連携	2.82±0.85	1.9%	15.4%	48.2%	23.8%	6.1%	4.5%
10) 気になる子への対応	2.91±0.82	2.9%	16.7%	48.6%	25.1%	2.9%	3.9%
11) 被虐待児への対応	2.70±0.84	1.6%	10.0%	48.9%	25.7%	8.0%	5.8%
12) 職員指導	3.42±0.84	9.3%	33.1%	44.1%	8.7%	1.3%	3.5%
13) 保護者への保健指導	3.40±0.89	9.6%	33.8%	40.2%	10.9%	1.9%	3.5%
14) 病児・病後児保育での健康観察	3.58±0.85	10.6%	43.1%	31.5%	6.8%	1.6%	6.4%
15) 地域の子育て支援	2.78±0.97	3.5%	15.8%	41.5%	24.4%	9.6%	5.1%
16) 災害時緊急時に備えた対応	2.92±0.82	3.2%	14.5%	55.0%	18.6%	4.8%	3.9%
保育所保健活動の自信合計 (n=271)	53.70±8.70	(range 33~80)					
(0~80)							
(自信平均)	3.36±0.54)						

表 3 看護師等の自信に影響する因子 *

	標準化係数β	有意確率	R ²	調整済みR ²
保健活動の実態	0.419	0.000		
看護師等配置の意義	0.125	0.017		
保育所勤務年数	0.125	0.010		
休日保育実施の有無	-0.121	0.010		
子育て経験の有無	0.101	0.034		
小児看護臨床経験の有無	0.094	0.049		
			0.337	0.324

* 重回帰分析 変数減少法

動の担当状況とほぼ合致する結果であった。自信の高い項目は、保健活動の中でも、保育所特有の活動ではなく、小児保健や看護師等の臨床場面でも行われる活動であり、専門性が自信に結びついたと考えられる。しかし、『職員指導』、『保護者への保健指導』という指導項目は、担当している割合は高いが、自信を持っていない現状であった。村上らは「園児や保護者に対する健康教育」が最も看護師等に期待する役割であることを示したが⁶⁾、一方で保育所看護職が不明確な立場であり、保育業務の中で専門性を発揮できにくいと指摘している¹²⁾。また、矢野は、保育所看護師の「思い」として保育所看護職者としてのジレンマを明らかにし、保育所看護職者としての専門性への自信のなさが保護者や保育士に対して専門職としての意見を主張することが困難な状況を生み出し、対人関係上のジレンマが生じなかなかり組めない状況が生じていると述べている¹³⁾。本研究結果からも、保育所保健活動の専門家として職員や保護者へ指導的な立場で接することへのジレンマや困難感が生じ、担当している割合が高いにもかかわらず、保育所保健活動に対する自信に反映していない可能性が示唆された。また、自信について否定的な自己評価であった5項目のうち、『被虐待児への対応』、『地域の子育て支援』は、「健やか親子

について、有意な相関が認められた (p < .01)。単回帰分析で保育所保健活動に対する自信と有意な関連がみられた10項目を独立変数とし、看護師等の自信を従属変数として変数減少法で重回帰分析を行った。この結果、保健活動の実態で担当業務が多いこと、看護師等配置の意義の評価が高いこと、保育所勤務年数が長いこと、休日保育を実施していないこと、子育て経験があること、小児看護臨床経験があることの6項目に有意な関連がみられた (p < .05) (表3)。

Ⅵ. 考 察

1. 看護師等の保育所保健活動に対する自信

保育所保健活動に対する自信は、看護師等の保健活

21 (第2次)」¹⁴⁾においても、基盤課題や重点課題として位置づけられており、支援の充実が求められている。地域の子育て支援拠点として保育所保健活動においても対応が急務であり、専門家として自信を持って対応できるよう保育所看護師等に対する研修等の方策が必要である。『障がい児への対応と関連機関との連携』、『気になる子への対応』、『災害時緊急時に備えた対応』といった近年着目されてきた比較的新しい課題についても、保育所看護師等への役割期待が高く、対応が求められる。

2. 保育所看護師等の保育所保健活動に対する自信に影響する因子

看護師等の保育所保健活動に対する自信にもっとも高い影響を持つものは、保健活動の実態、次いで看護師等配置の意義の評価、保育所勤務年数であった。湯目は、看護師の役割を実感し、専門性を発揮する機会が保障されることで看護師としての自信につながると考察した¹⁵⁾。本研究結果からも、保健活動をより多く担当し、自分が保育所で働くことの意義を感じることが自信に関連していた。そして保育所の勤務経験を重ねることで、その役割や専門性が明確となり自信につながる。今後、幼保連携推進に伴う認定子ども園の設置から保育所看護師等に期待される役割はさらに高まると予測される。小児看護臨床経験や子育て経験に左右されることなく、一人職種でも保育所保健活動の専門家として活動できる職業アイデンティティの確立が求められる。保育所の中で、多職種が協働して子どもとその家族の健康、発育、発達を支援するうえで、専門家として指導的な立場で接することへのジレンマや困難感を軽減し、その専門性を発揮した活動を行える環境の整備と、小児看護臨床経験等を補い、専門性を高める研修等の開催、保育所看護師として長期的に働くためのキャリア支援の必要性が示唆された。

今回の研究結果から、休日保育を実施していないことが保育所保健活動に対する自信に影響を与えていたが、本研究では休日保育の実施割合が低かったことから、休日保育を含む保育所特別事業の実施状況など職場環境が与える影響としてさらに調査を深める必要がある。

3. 本研究の限界

本調査は、新保育指針が公表されて初めての全国規

模の調査であり、保育所看護師等の保育所保健活動に対する自信に関する初めての研究である。しかし、現代の子育て家族の共働きの現状や、女性の社会進出に伴い、待機児童の問題など保育所不足は大きな社会問題となっている。無認可保育施設や認証保育所などさまざまな選択肢の中で、認可保育所は条件が比較的整っており、今回の全国調査は、保育現場の現状より看護師等の配置が進んでいる可能性が否定できない。保育所保健活動について、明確に内容を明示しなかったため、活動状況および自信についてのとらえ方等に差が生じる可能性も否定できない。

VII. 結 論

保育所看護師等が配置されている保育所における保健活動に対する活動状況と自信の実態と、自信に影響する因子を明らかにした。保育所看護師等の保育所保健活動に対する自信は、保健活動の実態、看護師配置の意義の評価、保育所勤務年数、休日保育の有無、子育て経験、小児看護臨床経験があることが影響を与えており、保育所看護師等の拡充への示唆が得られた。

謝 辞

調査にご協力いただきました保育所長および職員の皆様に厚く御礼申し上げます。

本研究は、平成21年10月厚生労働省の補助事業である日本保育協会「保育所の環境整備に関する調査」²⁾の調査項目の一部である。

利益相反に関する開示事項はありません。

文 献

- 1) 厚生労働省雇用均等・児童家庭局保育課. 保育所保育指針解説書. 平成20年4月. <http://www.mhlw.go.jp/bunya/kodomo/hoiku04/pdf/hoiku04b.pdf>
- 2) 日本保育協会. 保育所の人的環境としての看護師等の配置. 厚生労働省の補助事業 平成21年度保育所の環境整備に関する調査研究報告書 (主任研究者: 上別府圭子), 2010: 3.
- 3) 高野 陽. 保育所における保健・衛生面の対応に関する研究. 厚生科学研究費補助金 (子ども家庭総合研究事業) 平成12年度研究報告書 (主任研究者: 高野 陽), 2001: 3: 571-573.
- 4) 片岡亜佐美, 矢野智恵, 山崎美恵子. 保育士の保健所看護職者への認識と期待する役割. 高知学園短期

大学紀要 2012 ; 42 : 55-66.

- 5) 遠藤幸子. 保育所保健の実践的研究 (1) 保育所における看護職の役割と活用. 厚生科学研究費補助金 (子ども家庭総合研究事業) 平成12年度研究報告書 (主任研究者: 高野 陽), 2001 ; 3 : 636-638.
- 6) 村上慶子, 西垣佳織, 上別府圭子. 東京23区内の保育所における保健活動と看護職の役割に関する実態調査. 小児保健研究 2009 ; 68 (3) : 387-394.
- 7) 木村留美子, 棚町祐子, 田中沙季子, 他. 保育園看護職者の役割に関する実態調査 (第1報) —保育園看護職者の役割遂行状況と看護職者に対する保育士・保護者の認識—. 小児保健研究 2006 ; 65 (5) : 643-649.
- 8) 稲毛映子. 福島県内の保育施設における看護職の現状に関する調査—期待される役割に関する一考察—. 福島県立医科大学看護学部紀要 2007 ; 9 : 25-40.
- 9) 岡本佐智子, 梅澤祥子, 埼玉県 of 保育所における保健職に関する実態調査. 日本健康教育学会誌 2000 ; 7 (1・2) : 11-17.
- 10) 荒木暁子, 遠藤巴子, 羽室俊子, 他. 岩手県の保育園保健の実態と看護職の役割. 岩手県立大学看護学部紀要 2003 ; 5 : 47-55.
- 11) 全国看護師保健師連絡会. 保育の中の保健.
- 12) 川上 葵, 國方弘子. 中国地方の保育園で勤務する看護職の意識. 地域看護 2006 ; 37 : 222-224.
- 13) 矢野智恵, 片岡亜沙美, 山崎美恵子. 乳幼児の健康支援への保育所看護職者の「思い」に関する研究. 高知学園短期大学紀要 2010 ; 40 : 33-43.
- 14) 厚生労働省「健やか親子21」の最終評価等に関する検討会. 「健やか親子21 (第2次)」について検討会報告書. 平成26年 4 月. www.mhlw.go.jp/file/04-Houdouhappyou.../0000045759.pdf
- 15) 湯目礼子. 保育園における看護職の活動の実態と役割意識—神奈川県下のアンケート調査から—. 神奈川県立看護教育大学学校教育研究集録 1998 ; 23 : 448-455.

[Summary]

The purpose of this study was to clarify the health care activity of nurses working for nursery schools, self-confidence of the nurses, and the factors that influence their confidence. The questionnaire was investigated in 2,289 nationwide authorized nursery schools, and the nurses and the nursery school directors from 311 facilities responded. The nursery school director were to answer to the background information of the nursery school, and nurse's to their background, nursery school health care activity, and self-confidence in their work were asked to the nurse. The self-confidence of nurses was measured by the Likert scale (From 1. not at all to 5. very confident).

As the result, the average of total score of 16 items to see the self-confidence was 53.7 ± 8.7 points (range 33 ~ 80). The self-confidence of nurses in each health care activities was corresponding to the health care activity situation in the nursery school. The item that influences self-confidence in the nurse's health care activity was 1) the nurse's health care activity situation in their nursery school, 2) the value of the existence of nurse in nursery school, 3) working period in nursery schools, 4) job on holiday child care, 5) the experience of bringing up a child, 6) the clinical experience in pediatrics department (backward regression method $p < .05$).

Nurse is a specialist of health care activity in nursery schools. Therefore, developing self-confidence of nurses in health care activity is the key to enhance of health care activity in nursery schools. The necessity of the training for nurses to encourage their confidence is suggested.

[Key words]

nursery schools, nurses, confidence, health care activities